

# 2022年度 早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科 研究指導内容・コード一覧

以下は **2021年8月6日時点** の情報です。公開後の変更は赤字で記載します。  
今後内容が変更になる可能性もありますのでご注意ください。

## <注意事項>

① **当研究科では入学後のミスマッチを防ぐために、出願前にご自身の希望する研究指導の担当教員とコンタクトを取り、担当教員とご自身の考えている研究内容などを十分に相談することをおすすめしております。**

- (1) 担当教員への連絡は、以下メールアドレス宛てに送付してください。  
なお、送付の際は以下を必ず明記してください。
- 1) 指導を希望する教員名
  - 2) 希望する課程(修士課程2年制・博士後期課程・修士課程1年制)
  - 3) 希望する入試形態(一般入試・推薦入試・社会人入試など)
  - 4) 氏名・カナ氏名(在学生の場合は学籍番号も記載)
  - 5) 自身の連絡先(携帯電話番号、メールアドレス等)
  - 6) 教員へ送付したい内容(教員への質問や相談などを詳細に明記すること)

送付先：早稲田大学研究者データベース (<https://w-rdb.waseda.jp/search?m=home&l=ja>) または  
研究室 HP を検索し、各教員のメールアドレス宛に直接ご連絡ください。

上記を調べても分からない場合、以下の宛先にお送りください。

事務所より、先生宛に転送します。

supoken-nyushi@list.waseda.jp

早稲田大学所沢総合事務センター

大学院スポーツ科学研究科 入試担当 宛

- (2) 海外出張等で教員とすぐに連絡がつかない、または返信が遅れる場合もありますので、早い段階から教員との相談・確認してください。

② 研究指導コードは次ページ以降を参照のうえ、間違いのないように志願票にご記入ください。

<ご参考：早稲田大学 Web シラバスシステム (検索ページ) >

<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

# 2022年度 大学院スポーツ科学研究科 研究指導コード一覧

## ●修士課程2年制・博士後期課程

研究領域	研究指導コード 【修士2年制】	研究指導コード 【博士後期】	研究指導名	資格	担当教員名
スポーツ文化	A15	—	スポーツメディア論	教授	トンプソン リー A.
	A28	—	スポーツ史	教授	石井 昌幸
	A30	—	舞踊論	教授	杉山 千鶴
	A32	—	体育科教育学	准教授	吉永 武史
	A35	M35	スポーツ教授学	准教授	深見 英一郎
	A38	M20	スポーツ社会学	准教授	中澤 篤史
	A40	M25	スポーツ文化論	教授	川島 浩平
スポーツビジネス	B00	—	スポーツ経営学	教授	木村 和彦
	B05	N05	健康スポーツ論	教授	中村 好男
	B15	N15	スポーツクラブビジネス論	教授	間野 義之
	B20	N20	トップスポーツビジネス論	教授	平田 竹男
	B22	N30	スポーツ組織論	教授	作野 誠一
	B24	N35	スポーツビジネス・アドミニストレーション	教授	武藤 泰明
	B26	N26	スポーツビジネスマーケティング	教授	松岡 宏高
	B28	—	スポーツビジネス法	准教授	松本 泰介
スポーツ医科学	C00	P00	運動免疫学	教授	赤間 高雄
	C25	P52	運動器スポーツ医学	教授	鳥居 俊
	C32	P32	健康行動科学	教授	岡 浩一朗
	C34	P34	スポーツ整形外科	教授	金岡 恒治
	C36	P36	予防医学	教授	鈴木 克彦
	C38	P38	アスレティックトレーニング	教授	広瀬 統一
	C40	P42	筋生物学	教授	秋本 崇之
	C42	P44	運動代謝学	教授	宮下 政司
	C46	P46	運動器スポーツ機能解剖学	教授	熊井 司
	C48	P50	健康教育学	准教授	石井 香織
	C50	P54	スポーツ神経精神医科学	准教授	西多 昌規
	C52	P48	スポーツ疫学	教授	澤田 亨
	C56	—	アスレティックパフォーマンス	准教授	平山 邦明
	C58	—	環境運動生理学	准教授	細川 由梨
	C60	—	スポーツ生化学・遺伝学	講師	谷澤 薫平
	C62	P56	スポーツ生理学	教授	前田 清司
C64	P58	応用生理学	教授	宮地 元彦	
身体運動科学	D05	Q05	生体ダイナミクス	教授	川上 泰雄
	D30	Q30	スポーツ心理学	教授	正木 宏明
	D38	Q38	統合運動神経生理学	教授	宝田 雄大
	D42	Q42	バイオメカニクス	教授	矢内 利政
	D45	Q45	スポーツ栄養学	教授	田口 素子
	D50	Q48	運動生理学	教授	林 直亨
コーチング科学	E00	—	走運動・コーチング科学	教授	磯 繁雄
	E05	—	トップスポーツコーチング科学	教授	奥野 景介
	E10	R10	スポーツコーチング学	教授	土屋 純
	E15	R25	コーチング心理学	教授	堀野 博幸
	E16	—	ボールゲーム戦術戦略論	教授	倉石 平
	E20	R20	トレーニング科学	教授	岡田 純一
	E25	R35	チームスポーツコーチング論	准教授	松井 泰二
	E28	R30	武道のコーチング学	教授	射手矢 岬
	E30	—	冬季スポーツコーチング学	准教授	藤田 善也

●修士課程1年制

研究指導コード 【修士1年制】	研究指導名	資格	担当教員名
F00	トップスポーツマネジメント	教授	平田 竹男
G00	スポーツクラブマネジメント	教授	間野 義之
H00	健康スポーツマネジメント	教授	中村 好男
J00	介護予防マネジメント	教授	岡 浩一郎
L50	エリートコーチング	教授	土屋 純(主担当)
		教授	磯 繁雄
		教授	奥野 景介
		教授	堀野 博幸
		教授	倉石 平
		教授	岡田 純一
		准教授	松井 泰二
		教授	射手矢 岬
		准教授	藤田 善也
I00	スポーツジャーナリズム	客員准教授	藤原 庸介(主担当)
		教授	中村 好男
		教授	平田 竹男

## 修士課程2年制コース・博士後期課程

### 1. スポーツ文化 研究領域

スポーツメディア論 研究指導(修士課程)

リー トンプソン 教授

社会学/スポーツ社会学

学位:博士(社会学)大阪大学

Home page:<http://www.f.waseda.jp/thompson/index.htm>

研究指導内容:メディアとはコミュニケーションの媒体となるものであるが、とくにマスコミュニケーションの手段であるテレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアをいうことが多い。マスメディア研究には大きく分ければ制作、内容、オーディエンスという3つの領域がある。スポーツメディア論では、少なくとも一つの領域からスポーツとメディアの関係をとり上げる。私は特に内容について関心があるが、マスメディアとスポーツの関係を理解するには、全体を把握する必要がある。社会学の立場から指導する。

Keywords: スポーツ社会学、メディア、内容分析、オーディエンス

スポーツ史 研究指導(修士課程)

石井 昌幸 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ史・国際スポーツ文化論

研究指導の内容:スポーツおよび身体に関わる歴史研究の方法を指導する。現在、指導教員は、近代欧米社会を中心に、工業化社会・市民社会におけるスポーツ文化の形成過程を主たる研究テーマとしているが、そのほかに、プロスポーツ、スポーツ産業の成立過程、日本における近代スポーツの受容過程、世界各地へのスポーツ伝播のプロセスなど、さまざまな文化史研究への展開を考えている。また、近代国民国家における国民統合とスポーツの関係や、近代スポーツを通じての文化変容、身体観の変容といった比較的新しい歴史学のトピックも扱いたい。

Keywords:スポーツとイギリス近代、伝播、変容、土着化、国民国家、帝国

舞踊論 研究指導(修士課程)

杉山 千鶴 教授

専門分野/専攻分野:舞踊学、モダンダンス

研究指導の内容:本研究指導では、特定のジャンル・地域・時期に限定しない。広く舞踊の各ジャンルならびにこれに類する芸術スポーツとされるものにまつわる諸問題に関し、記され残された文献・資料、実践を通して研究を進める。また舞踊と深い関連を有する軽演劇や音楽(オペラ)も視野に入れる。例えば日本のモダンダンスの草創のキャリアのスタートがオペラ歌手であったこと、その前史が1920年代の軽演劇(浅草オペラ、浅草レビュー)に認められるように、これらの領域は舞踊史を考える際に不可欠である。多様なアプローチを試みたい。

Keywords:舞踊、芸術スポーツ、軽演劇、振付・動作、技法

---

体育科教育学 研究指導(修士課程)

吉永 武史 准教授

専門分野／専攻分野:体育科教育学

研究指導の内容:体育科教育学は、学校の体育授業を中心とする体育実践の改善を目的として行われる研究分野である。研究指導では、従前の体育科教育学の研究成果を踏まえて、カリキュラム論と学習指導論の両面から体育授業研究にアプローチし、優れた体育授業を実践していくための方策について検討する。具体的には、体育授業の目的・目標論、学習内容論、内容編成論、教材づくり論、指導方法論など、それぞれ理論的・実証的方法で研究を進めていく。加えて、球技の指導モデルとして注目されている戦術学習論や、高度な実践的力量を備えた体育教師の養成に向けた教師教育論についても指導する。

Keywords:カリキュラム、学習指導、教材開発、パフォーマンス評価、戦術学習、教師教育論

---

スポーツ教授学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

深見 英一郎 准教授

専門分野／専攻分野：スポーツ教授学

学位：博士（体育科学）筑波大学

研究指導の内容：スポーツ教授学は、スポーツ教育学の中核となる学問領域であり学校の体育授業や運動部活動、さらには地域のスポーツ活動における優れた実践指導のあり方を追究することを目的として行われる研究分野である。スポーツ指導の成否は、その直接の担い手である指導者の資質や能力が大きく影響する。ここでは、指導者の経験やセンスという表現でこれまで扱われてきたものを、指導者の教授技術や知識・思考といった側面から検討する。具体的には、学習者が意欲的に運動に取り組み、運動技術を習得するために、指導者はどのような働きかけができるか。そのために、指導者にはどのような資質や能力が求められるかについて理論的ならびに実証的方法で研究を進めていく。

Keywords: スポーツ教育、教授技術、体育授業、運動部活動、指導者、指導方法

---

---

スポーツ社会学(修士課程、博士後期課程)

中澤 篤史 准教授

専門分野／専攻分野:スポーツ社会学

学位:博士(教育学、東京大学)

研究指導の内容: スポーツ・身体・人間に関連する社会現象を、社会学を中心とした社会科学的アプローチから探究する研究を指導します。

私自身は、ユーススポーツや運動部活動、身体の教育などについて研究していますが、大学院生諸君の研究テーマや分析対象は幅広く多様であって構いません。「権力」「ジェンダー」「セクシャリティ」「障害」「逸脱」「暴力」「格差」「差別」「組織」「ナショナリズム」「民主主義」「資本主義」「近代化」「グローバル化」etc. 各自の問題関心を大切に、オリジナリティあふれる研究を支援します。

指導方針として、①魅力的な「問い」が立てられるようになること、②方法論や分析枠組みを適切に設定できるようになること、③データや根拠を十分に集められるようになることを重視します。合わせて、フィールドワーク、史資料の蒐集、質問票調査および統計的分析などの調査方法についても指導します。

授業では、毎回のゼミにテキストを読んで参加し積極的にディスカッションすること、文献レジュメ発表／個人研究発表／レビュー発表／データ分析を行うこと、そして読書課題に取り組むことを求めます。スポーツ社会学の専門的文献以外に、人文社会科学の幅広い素養を身に付けてもらうため多くの文献講読を課しますので、日本語および英語のハイレベルな語学力が必須となります。

以上を通じて、高度人材として活躍できる社会人育成およびアカデミズムの発展に貢献できる研究者育成をめざします。

Keywords: 社会、ユーススポーツ、運動部活動、身体の教育

---

スポーツ文化論(修士課程、博士後期課程)

川島 浩平 教授

専門分野／専攻分野:スポーツ文化論／スポーツ史

学位:Ph.D.(米国ブラウン大学歴史学)

研究指導の内容:スポーツ史学、スポーツ人類学の方法論を用いて、アメリカ合衆国および日本におけるスポーツの歴史と現在を研究領域とする。より具体的には、両国における階級的な対立や人種差別、性差別の歴史を視野に入れながら、各時代においてスポーツが、市民・国民間のこうした格差や差異による軋轢や摩擦といかに連動し、これを強化・補強し、あるいはこれを調停または軽減したかについて実証的に考察する。また、野球、アメリカンフットボール、バスケットボール、バレーボールなどのアメリカ起源のスポーツが近代日本へいかに伝播し、発展して現在に至っているかを上述の方法論・視座・視点から捉え、その歴史と現在を検証する。これらの領域や問題意識と関心を共有する研究プロジェクトに対して、研究指導をおこなう。

Keywords:アメリカ合衆国、近代日本、人種・エスニシティ、社会階級、ジェンダー、人類学

---

---

## 2. スポーツビジネス 研究領域

---

スポーツ経営学 研究指導(修士課程)

木村 和彦 教授

専門分野／専攻分野:スポーツ経営学/スポーツツーリズム論

研究指導内容:スポーツ経営は、スポーツ参加や観戦を支えるスポーツサービスを効果的・効率的に提供しようとする組織的な営みである。その領域は、メガスポーツイベントやプロスポーツ球団の経営から地域スポーツや学校体育の経営まで広範囲にわたる。本研究指導では、個別のスポーツ経営領域を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を高めていく。具体的には、経営戦略や事業戦略、マーケティングと消費者行動、組織と人的資源マネジメントなどに焦点を当て、定量的(質問紙調査など)・定性的(ケーススタディなど)分析手法を身につける。また新たなテーマとして、スポーツツーリズムについても注目している。

Key words:経営戦略、マーケティング、人的資源マネジメント、スポーツツーリズム

---

健康スポーツ論 研究指導(修士課程、博士後期課程)

中村 好男教授

専門分野／専攻分野:健康スポーツ論・スポーツ産業学

学位:博士(教育学)東京大学

E-mail:[nakamura@waseda.jp](mailto:nakamura@waseda.jp)

研究指導の内容:本研究指導では、“スポーツを通じた健康増進”という社会的ニーズに応えるために、体力科学、運動生理学、栄養学などの<身体の理論>から、身体行動科学、社会マーケティングといった<行動の理論>、さらには、ビジネスマネジメント、マーケティングなどの<社会組織の理論>まで、様々な領域における基礎学問分野の知見を踏まえて、「地域住民へのスポーツ振興」ならびに「健康増進の達成」という目標を実現するための実践的技法を確立することを目指している。具体的には、地域自治体、フィットネス施設、老人福祉施設、職場等のさまざまな現場(フィールド)での実践的研究によって、健康増進や生きがい支援に資するためのプログラムの開発とその評価モデルの構築に加えて、地域社会におけるスポーツ振興、健康増進ならびに高齢者生きがい支援システムの構築を行う。主な研究課題は、1)健康増進を目標とする運動やスポーツの振興と奨励の手法開発と評価、2)ウォーキングプログラムの開発と指導、3)介護予防のためのトレーニングプログラムと地域住民ボランティア育成手法の開発と実践活用、4)スポーツビジネスの活性化とスポーツ振興、5)高齢者の健康増進と生きがい支援などがある。

Keywords:健康、運動、高齢者、健康増進、介護予防、ウォーキング、行動科学、マネジメント

---



---

スポーツクラブビジネス論 研究指導(修士課程、博士後期課程)

間野 義之 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ政策

学位:博士(スポーツ科学)早稲田大学

Home page: <http://www.manosemi.net/>

研究指導の内容:学校運動部活動と企業スポーツを両輪とした日本型スポーツシステムの限界が見えるなか、地域密着型の新たなスポーツシステムが求められている。企業運動部のクラブ化はもとより、Jクラブやプロ野球でも地域に根付いたクラブ化を模索しており、その一方で学校・地域・家庭・企業・行政の連携による「総合型地域スポーツクラブ」の普及・育成が国策として進められている。プロ・アマを問わず、これらのクラブが自主独立し健全に発展するためには、多くの複雑な問題が存在する。それら諸問題の現実的な解決策(ソリューション)について研究指導する。具体的には、プロ・アマのクラブについての育成政策、活動拠点となる公共スポーツ施設政策、スタジアム・アリーナの整備・管理・運営政策、それらのモデルを実現できる人材(マネジャー)育成政策、クラブ創設・継続に必要な財政、継続事業体としての法人化政策、地方自治体や中央政府との連携方策、効果的なプロモーション政策などについて総合的に研究指導する。

Keywords:クラブビジネス、スタジアム・アリーナビジネス、リーグビジネス

---

トップスポーツビジネス論 研究指導(修士課程、博士後期課程)

平田 竹男 教授

専門分野/専攻分野:経営学/スポーツクラブ、スポーツマーケティング、スポーツビジネス論

学位:工学博士(東京大学)

Home page:<http://www.waseda.jp/sem-hirata/>

研究指導の内容:本研究指導では、将来のスポーツ界のトップリーダーに対して理論的支柱を与えることを目的とし、近年急速に進展を遂げるトップスポーツビジネスに関して、メディアの発展およびマネジメント手法の進化を踏まえ、スポーツクラブや競技団体、そしてスポーツメディア、スポーツに関する企業等の持つ課題に対する解決方法を究明する。

日本サッカー協会専務理事や内閣官房 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進本部事務局長としての経験等に基づき指導を行う。

具体的な研究課題:

- 1) 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシーに関する研究
- 2) 地域スポーツクラブのビジネスモデルに関する研究
- 3) プロスポーツ等のリーグ設計及びクラブ・球団経営
- 4) スポーツメディア研究
- 5) スポーツリーグ分析と競技団体研究
- 6) スポーツを活用した企業、大学、教育機関の経営研究
- 7) スポーツ外交、資源外交、ソフトパワー論 など

Keywords:スポーツクラブ、スポーツメディア、スポーツマーケティング、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、リーグ、マネジメント、エンターテインメント、地域、アジア

---



---

スポーツ組織論 研究指導(修士課程、博士後期課程)

作野 誠一 教授

専門分野／専攻分野: 体育・スポーツ経営学、スポーツ組織論

学位: 博士(学術)金沢大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/sakuno/>

研究指導の内容: 人とスポーツの関わりは、「する」「みる」にとどまらず、「支える」「読む」など多岐にわたる。そして、いずれの関わり方も何らかの組織を介していることが多い。本研究指導においては、多様な体育・スポーツ経営現象を把握・説明する枠組みとしての組織論について理解を深め、これを基盤とする組織マネジメントの方法について考究する。さらに、各自の関心に基づき研究を進めるための基本的な知識ならびに調査・分析技法(量的／質的)の習得をめざす。研究テーマとしては、各種スポーツ組織のマネジメントについて、リーダーシップ、モチベーション、組織化(支援)、人材マネジメントなど、主にミクロ-メゾレベルの組織論の視点からこれを捉える。その他にもボランティアマネジメント、学校体育と地域スポーツの連携など、幅広いテーマについて指導している(詳細については上記 HP を参照)。

Keywords: スポーツ組織、地域スポーツ、スポーツクラブ、人材マネジメント、学校体育経営

---

スポーツビジネス・アドミニストレーション 研究指導(修士課程、博士後期課程)

武藤 泰明 教授

専門分野／専攻分野: スポーツマネジメント / スポーツファイナンス

学位: 博士(スポーツ科学) 早稲田大学

Home page: <http://muto-web.jp/>

研究指導の内容: スポーツビジネスの世界は、一般的なビジネスやマネジメントでは取り扱わ(え)ない新しい研究テーマの「宝庫」です。本研究指導では、ビジネス、マネジメントとスポーツビジネス、スポーツマネジメントを比較分析の観点から取り上げ、専門的な知識を修得していきます。またこれにより、実業に進むことを志向する学生については、スポーツに関連するビジネスでマネジメントを担務する能力の形成を目指します。研究者を志望する学生については、新たな研究領域やテーマの開拓を主な目的とします。

Keywords: プロスポーツの経営戦略、非営利組織のマネジメント、スポーツ・ガバナンス、スポンサー・マーケティング、企業スポーツ

---

---

スポーツビジネスマーケティング 研究指導(修士課程、博士後期課程)

松岡 宏高 教授

専門分野/専攻分野: スポーツマネジメント、スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動論

学位: Ph.D. (スポーツマネジメント) オハイオ州立大学

研究指導の内容: 「見るスポーツ」を売るプロスポーツクラブ・球団や「するスポーツ」を売るスポーツクラブ・団体など、スポーツ組織のビジネスにおいてマーケティングは不可欠である。スポーツマーケティングには、スポーツを効率よくプロデュースして提供する「スポーツのマーケティング」と、企業がスポーツを利用してプロモーション活動を行う「スポーツによるマーケティング(=スポーツスポンサーシップ)」があり、それぞれスポーツ消費者(する人や見る人)の理解が最優先の課題となる。本研究指導では、主にスポーツ消費者の心理や行動の理解に焦点を当て、その解明に必要な科学的な研究方法を身につけることを目的とする。具体的な研究テーマとしては、スポーツファン・観戦者の動機とチームへの愛着、スポーツ消費者のサービス評価と満足、プロスポーツ球団・クラブのプロモーションの効果、そしてスポーツスポンサーシップの効果などがある。

Keywords: スポーツビジネス、スポーツマーケティング、スポーツ消費者、スポーツスポンサーシップ

---

スポーツビジネス法 研究指導(修士課程)

松本 泰介 准教授

専門分野/専攻分野: スポーツ法

研究指導の内容: スポーツ界の現場において、スポーツ仲裁やスポーツガバナンスの観点からの要請が強くなり、代表選考の場面、アンチ・ドーピングや暴力・セクハラ問題などのインテグリティの場面、スポーツ関係者への懲戒処分などの場面、スポーツ仲裁の場面など、スポーツ法を意識しなければならない場面が非常に増えている。このようなホットピックに関する実践的な研究を指導する。

---

---

### 3. スポーツ医科学 研究領域

---

運動免疫学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

赤間 高雄 教授

専門分野／専攻分野:スポーツ免疫学、スポーツ医学、アンチ・ドーピング

学位:医学博士(筑波大学)

Home page:<http://www.f.waseda.jp/takao-akama/top.html>

研究指導内容:運動による免疫機能の変化の解析とその応用について研究する。運動による免疫機能の変化のメカニズムを検討し、適度な運動が免疫機能を高めることを検証する。主な研究テーマとしては、(1)加齢で低下した高齢者の免疫機能を高める運動処方、(2)アスリートのトレーニングに伴う免疫機能の変化の測定とコンディショニングへの応用、(3)運動後の免疫機能低下のメカニズムと低下防止の方策の検討である。また、アスリートのコンディショニングにおいて重要なファクターであるアンチ・ドーピングも研究テーマとする。

Keywords:免疫、防衛体力、加齢、コンディショニング、細胞、蛋白質、アンチ・ドーピング

---

運動器スポーツ医学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

鳥居 俊 教授

専門分野／専攻分野:スポーツ医学／スポーツ整形外科学／発育発達学

学位:博士(スポーツ科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/shunto/>

研究指導の内容:スポーツや広く身体活動により人体に生じる変化を医学的側面より研究する。またスポーツ活動によって生じる急性・慢性損傷の発生メカニズムの運動学的分析、病態の生理・組織学的分析、生活習慣病や加齢による運動器変性疾患に対するスポーツや身体活動の運動療法としての有効性の検証、身体活動の心身の健康、QOL への貢献などに関しても実験研究・調査研究を行う。スポーツ現場での選手のコンディション管理やオーバートレーニングの予防、メディカルチェックシステムの構築など現場に直結する臨床研究も進める。さらに、発育期の運動器の形態や機能の変化、身体活動の効果を計測するとともに、体力・学力や生きる力の低下を問題視されている現代の子どもへの身体活動や身体への関心を通じた働きかけを実践したい。

Keywords:身体活動、運動器、スポーツ障害、コンディショニング、運動療法、生活習慣、発育発達

---

---

健康行動科学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

岡 浩一朗 教授

専門分野/専攻分野:健康行動科学、行動疫学

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/koka/index.html>

研究指導内容:職域や自治体、病院、学校などの健康づくりの現場と連携して、生活習慣改善、特に身体活動・運動の習慣化や座位行動の是正に関連した研究指導を行う。具体的には、①環境整備や行動理論を駆使した生活習慣(身体活動、座位行動)改善プログラムの開発・評価、②メディア分析を通じた健康情報の効果的な普及戦略の開発に関する研究、③介護予防プログラム(運動器の機能向上、認知症予防など)の開発・評価、④膝痛・腰痛高齢者の痛み自己管理への認知行動療法の応用、⑤心臓リハビリテーション患者の健康関連 QOL 改善を目指した運動指導方策の検討、⑥スポーツ・野外活動を通じた子ども・青少年の非認知能力向上策に関する研究、⑦認知行動療法に基づくスポーツ選手の心理的サポートに関する研究などである。健康経営、地域保健や介護福祉、医療・看護・リハビリテーション、学校教育、スポーツ指導などの現場で役に立つ行動科学的アプローチの視点や具体的方法について学べるよう支援する。

Keywords:行動変容、ナッジ、ヘルスコミュニケーション、座位行動、がん予防、犬の散歩、フレイル予防、運動器疾患、認知行動療法、メンタルヘルス、非認知能力、身体活動支援環境

---

スポーツ整形外科学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

金岡 恒治 教授

金岡 恒治 教授 専門分野/専攻分野: スポーツ医学/整形外科、バイオメカニクス

学位:博士(医学)筑波大学

研究指導の内容:スポーツ活動の動作解析や筋活動解析を通して理想的身体機能を探求し、同時にスポーツ障害発生に関わる身体機能不全を明らかにしていく。また推定された身体機能不全を改善するための介入研究を行い、その効果を検証し、障害予防対策を考案していく。ここで得られた機能改善介入はアスリートのパフォーマンス向上方法にも繋がる事が期待され、さらには腰痛をはじめとした様々な整形外科的疾患の運動療法開発にも繋がる。

Keywords:身体機能、障害予防、運動療法、パフォーマンス向上

---

---

予防医学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

鈴木 克彦 教授

専門分野／専攻分野:応用生理学、内科学、免疫学

学位: 博士(医学)(弘前大学)

Home page: <http://www.f.waseda.jp/katsu.suzu/>

研究指導の内容:激しい運動や過酷なトレーニングなどの身体的ストレスによる内科的障害の評価、病態機序の解析、および栄養、サプリメント、水分補給、休養、各種補完代替医療等による予防策の科学的根拠について研究する。具体的には、運動を中心とした生体のストレス応答と適応のメカニズムについて、特に生体防御(白血球機能、ホルモン・サイトカインの動態、活性酸素の代謝、筋損傷と修復)の面から研究している。また、適度な運動による生活習慣病の予防・治療と作用機序に関する検討、ストレス応答や免疫機能の解析・評価法の開発、臨床病院との連携による免疫低下、炎症、老化の制御に関する基礎的・応用的検討を進めている。研究内容については初学者で構わないが、生物化学系実験の経験と統計処理、英文読解能力は研究遂行上必須である。複数の研究プロジェクトに関わりながら、自らのテーマを設定し、研究を計画・実行し、学会発表、論文作成を進められるように指導する。

Keywords:運動、ストレス、白血球、活性酸素、ホルモン、サイトカイン、炎症、老化、生活習慣病

---

アスレティックトレーニング 研究指導(修士課程、博士後期課程)

広瀬 統一 教授

専門分野／専攻分野:アスレティックトレーニング、スポーツ医学、発育発達

学位:博士(学術)東京大学

Home page: <http://hirose-labo.jimdo.com/>

研究指導の内容:アスレティックトレーナーやコンディショニングコーチとして活動する上で必要とされる、科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムやコンディショニングプログラムの確立を目指し、研究を進めている。スポーツ外傷・障害予防研究では、主に運動器に生じる外傷・障害発症メカニズムと要因分析を行い、予防プログラム立案と効果検証を実施している。コンディショニングプログラムにおいては性差、年齢差、生物学的成熟度差を考慮したフィジカルトレーニング方法およびコンディショニング手法の立案と効果検証を行っている。

Keywords:足関節捻挫、ACL、スポーツパフォーマンス、サッカー、タレント発掘

---

筋生物学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

秋本 崇之 教授

専門分野／専攻分野:筋生物学、メカノバイオロジー

学位: 博士(医学)筑波大学

研究指導の内容:骨格筋をモデルとして、メカニカルストレスによる組織の可塑性メカニズムに関して研究する。現在の研究室の主な研究テーマとしては、(1)メカニカルストレスによる骨格筋組織の可塑性メカニズム、(2)骨格筋がメカニカルストレスを受容するメカニズム、(3)骨格筋組織の生体外構築技術の開発等である。大学院生に対しては、これらのうちいくつかの研究プロジェクトに関わりながら、自らが主体的に推進するテーマを設定し、実験を進め、データをまとめ、成果を発表し、論文を執筆し、研究費を獲得できる、自律的な研究者となるための素養を身につけられるよう指導する。

Keywords:分子細胞生物学、逆遺伝学(マウス)、バイオテクノロジー、転写制御、転写後制御、ビジョン、ハードワーク、チームワーク

---

---

運動代謝学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

宮下 政司 教授

専門分野／専攻分野： 運動代謝学、運動代謝学、運動栄養学、応用健康科学

学位:Ph.D., Loughborough University, United Kingdom

URL: <http://www.f.waseda.jp/m.miyashita>

研究指導の内容:若年者から高齢者までを対象に、身体活動実践や栄養改善による生活習慣病予防の評価と機序究明の両側面から研究を進めます。また、アスリートのパフォーマンスやコンディショニングという観点でも研究を進めます。具体的には、①身体活動・食事介入による動脈硬化症予防に関する研究、②身体活動・咀嚼と食欲に関する基礎(調節機構の解明)研究・応用(食行動)研究、③機能性食品と運動パフォーマンス・疲労に関する研究、④コンディショニングに関する生理学的研究などを研究します。さらに、国際共同研究を通して広い視座で挑戦的に協働して取り組める能力を身につけることで将来、国際的に活躍できる研究者の育成に力を注いでいます。「インパクトのある研究からより良い健康づくりへ」を研究室の目標とし、得られた研究成果を社会・国民に対し広く還元していけるように支援します。

Keywords:食後代謝、食欲、運動パフォーマンス、生活習慣病予防

---

運動器スポーツ機能解剖学(修士課程、博士後期課程)

熊井 司 教授

専門分野／専攻分野： スポーツ医学、機能解剖学、足の外科学、ダンスの医学、自転車の医科学

学位:博士(医学)奈良県立医科大

スポーツ選手にとって、運動器に発生する外傷・障害はパフォーマンス低下を引き起こすだけでなく、キャリアエンディングにも関わる重要な課題となる。運動器のスポーツ機能解剖学的観点から病態を把握し、治療・予防法を考案、実施するための手法を確立するための指導を行う。

主として病態解明のための機能解剖学的手法(屍体標本を用いた形態学的研究を含む)、バイオメカニクスによる手法、生体での超音波画像解析による手法などを用い、アスリートの障害治療および予防への提案となる研究を行う。

Keywords:機能解剖学、オーバーユース障害、低侵襲治療法、腱付着部症

---



---

健康教育学(修士課程、博士後期課程)

石井 香織 准教授

専門分野／専攻分野： 発育発達学、健康教育学

学位：博士(医学) 東京医科大学大学院医学研究科修了

生涯にわたり心身の健康を維持・増進していくことは、国をあげ対策を講じている重要な課題のひとつである。そのため、健康的な生活習慣を獲得するための効果的な方策を構築することが急務となっている。健康的な生活習慣を獲得するためには、人々が行っている健康行動の身体的・心理的健康への影響やその実態を把握し、健康行動に関連する要因を明らかにし、アプローチ方法を構築し働きかけを行うことが求められる。本研究指導では、健康教育学分野における健康づくり(特に身体活動・座位行動)に関する研究について指導を行う。主な研究のテーマは、健康教育学の諸理論を応用し、子どもから高齢者までの各ライフステージにおける身体活動の推進および座位行動の減少に関連する要因の解明やその支援方法の構築などを取り上げる。健康づくりが社会において求められている課題を理解し、その解決方法を科学的に特定するとともに、健康教育の現場において活用可能な具体的な手法の獲得を目指す。

Keywords： 健康行動、発育発達、行動科学

---

スポーツ神経精神医科学(修士課程、博士後期課程)

西多 昌規 准教授

専門分野／専攻分野：睡眠医学、精神医学、精神生理学、睡眠・生体リズム

学位：博士(医学)東京医科歯科大

Web ページ URL : <http://www.waseda.jp/prj-nishida/>

睡眠は、心身ともに健康な生活を維持するだけでなく、運動パフォーマンスを高めるためにも必要不可欠な要素です。当研究室では、運動と睡眠・生体リズム、精神・脳機能について、生理学的な研究を進めています。アスリートのパフォーマンス向上やコンディショニング、メンタルサポートに役立つ研究も行います。テーマとして、①睡眠や日中の眠気が身体運動に関わる精神・脳機能に与える影響についての研究 ②生体リズム、特にクロノタイプ(朝型・夜型の指向性)と身体運動との関連性に関する研究 ③コンディショニング(疲労回復)に効果的な仮眠環境の研究と応用 ④注意欠如多動症(ADHD)と運動機能特性との関連、およびアンチドーピングの観点からの精神刺激薬の使用状況の調査、などが挙げられます。学校教育やスポーツ指導だけでなく、医療や薬学、介護福祉含めた健康関連領域においても、昨今注目を浴びている睡眠やメンタルヘルスについて役立つ専門性が得られるように支援します。最新の寝具や新規のデバイスを用いた産学協同の研究も、積極的に進めています。方法としては、睡眠ポリグラフや簡易型脳波計、活動量計、自律神経計測を用いた実験を行っています。

Keywords： 身体運動、睡眠・生体リズム、睡眠医学、精神医学、メンタルヘルス

---



---

スポーツ疫学(修士課程、博士後期課程)

澤田 亨 教授

専門分野／専攻分野：スポーツ疫学／スポーツ疫学

学位：博士(医学) 順天堂大学

研究指導の内容：スポーツ疫学は、「疫学的研究手法」を駆使して、スポーツや健康に関する問題や課題を解決するための科学的根拠(エビデンス)を提供する学問です。それぞれの課程において、以下の事柄に関する支援を行います。

修士課程、博士前期課程：1) 研究テーマを適切に設定する、2) 研究テーマの背景や社会的意義に関する論文や研究テーマに関連する論文を検索する、3) 検索した論文を批判的に吟味する、4) 研究テーマに対する回答を導き出すための適切な研究デザインを構築する、5) 研究を実施する、6) 得られたデータを適切に解析する、7) 結果を適切に解釈する、8) 修士論文を執筆する

これらの過程を通じ、修士課程については、「エビデンスを活用して社会に貢献する専門家になる」ための支援を行います。また、博士前期課程については、「博士後期課程に進むための基礎能力を築く」支援を行います。

博士後期課程：1) 社会が解決を望んでいる問題を解決に導く研究テーマを設定する、2) 研究テーマを解決するための質の高い研究デザインを構築する、3) 適切な研究調査法を選択・実施し、得られた結果を適切に解析・解釈する、4) 国際的に著名な研究者と協力しながら質の高い論文を作成する

これらの過程を通じ、「身体活動やスポーツに関連する社会の問題の解決にグローバルに取り組む能力を醸成する」ための支援を行います。

Keywords： 疫学、公衆衛生、生物統計、健康、健康政策

---

アスレティックパフォーマンス(修士課程)

平山 邦明 准教授

専門分野／専攻分野：トレーニング科学、ストレングス&コンディショニング

学位：博士(スポーツ科学) 早稲田大学

研究指導の内容：フィジカルトレーニングを中心としてコンディショニングを行う上で必要となる科学的知見を集積し、より安全で、より効果的・効率的なコンディショニングプログラムを確立することを目指しています。1)アスレティックパフォーマンスの個人差の要因の解明、2)コンディショニングやトレーニング手法の生理学的・バイオメカニクスの特性の理解、3)コンディショニングやトレーニングの効果検証などを中心に、アスレティックパフォーマンスの向上に必要な知見について幅広く研究していきたいと考えています。主な対象はアスリートですが、その知見を一般成人や高齢者などにも応用していきたいと考えています。なお、スポーツ現場の課題を科学で解決するため、研究者も現場に出ることを推奨しています。

Keywords：爆発的パワー、スプリント走、ジャンプ、エンデュランス、傷害予防

---

---

環境運動生理学研究(修士課程)

細川 由梨 准教授

専門分野:アスレティック・トレーニング、スポーツセーフティ、環境運動生理学

学位:博士(運動生理学) コネチカット大学

研究指導の内容:暑熱環境下における運動生理学および労作性熱中症の病因学を、スポーツ科学、疫学、生気象学、公衆衛生学などと結びつけることで多面的に分析し、エビデンスに基づいた労作性熱中症の治療や予防方法について研究・発信している。労作性熱中症に限らず、その他の労作性疾患のプレホスピタルケアについても、大会医療をモデルに研究している。

また、スポーツ現場で培われたアスレティック・トレーニングやスポーツ医科学の知識を労働現場に応用し、労働現場の安全と労働者のパフォーマンス向上を目指した研究も進めている。

現在進められている主な研究とテーマには、(1)スポーツ外傷・障害調査、(2)国内外のスポーツ重篤事故予防ガイドラインの立案と効果の評価、(3)タクティカルアスリート向けの暑熱馴化プログラムの立案、(4)労作性熱射病プレホスピタルケアの確立、(5)GPS デバイスを用いたチームスポーツパフォーマンスの評価方法の検討、(6)アスリートにおける暑熱耐性の評価などが挙げられる。

Keywords: 労作性熱中症、暑熱耐性、スポーツセーフティ、プレホスピタルケア、大会医療、スポーツ関連突然死

---

スポーツ生化学・遺伝学(修士課程)

谷澤 薫平 講師

専門分野:運動生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学

学位:博士(スポーツ科学) 早稲田大学

研究指導の内容:健康増進および運動パフォーマンス向上の観点から、生化学・遺伝学的アプローチにより、①運動や栄養摂取の効果の個人差とその規定要因、②体力・運動能力の個人差を規定する遺伝的要因、③ゲノム情報や腸内細菌情報を活用した個別化運動・栄養処方、④身体活動・運動による疾病予防のメカニズムなどについて研究します。研究室で進めているプロジェクトへの参加を通じて、ヒトを対象とした生化学・遺伝学的な研究手法を習得しつつ、自らの研究テーマについて研究計画を立て、実験・データ分析を行い、論文を執筆するという一連のプロセスを、学生が主体的に進められるように支援します。将来研究者を志望する学生に対しては、修士論文の内容を国際的な学術雑誌に発表できるように支援します。

Keywords: ゲノム、遺伝子多型、腸内細菌叢、個人差、オミックス、身体活動、栄養、健康

---

---

スポーツ生理学(修士課程、博士後期課程)

前田 清司 教授

専門分野: スポーツ生理学

学位: 博士(体育科学) 筑波大学

研究指導の内容: スポーツ生理学では、主に以下の2つのテーマに関連した研究の指導を行う。

(1) 定期的な運動、食生活改善、睡眠が身体に与える影響とその機序に関する研究: 子供から高齢者、さらには肥満者などを対象として、定期的な運動、身体活動の増加、座位行動の是正、食習慣改善、睡眠などの生活習慣が心血管疾患をはじめとする生活習慣病、認知症、更年期症状などの発症や予防に与える影響を検討するとともに、その機序についても生理・生化学的アプローチにより検討する。(2) 競技スポーツにおけるコンディショニングおよび臓器適応に関する研究: アスリートが競技力を向上させるためのコンディショニングについて、睡眠(仮眠も含む)、月経周期、認知機能、免疫機能、機能的食品摂取などの観点から検討する。また、スポーツを継続することで生じる臓器(心臓、血管、腎臓など)の適応(スポーツ心臓、スポーツ血管、スポーツ腎臓など)について生理・生化学的観点から検討する。これらの研究で得られた成果は、学术界だけでなく、スポーツや健康の現場に広く発信・還元することを目指す。修士課程では国内外のスポーツや健康の現場でリーダーとなる高度専門職業人などの育成、博士後期課程では国内外のスポーツ科学分野で活躍できる自立した大学教員や研究者などの育成を目標として指導する。

Keywords: 健康支援、運動、食生活改善、睡眠、動脈硬化度、認知機能、更年期症状、アスリート支援、競技スポーツ、コンディショニング、運動パフォーマンス、臓器適応

---

応用生理学(修士課程、博士後期課程)

宮地 元彦 教授

専門分野: 運動生理学、健康・スポーツ科学

学位: 博士(体育科学)

Web ページ URL: [https://w-rdb.waseda.jp/html/100002864\\_ja.html](https://w-rdb.waseda.jp/html/100002864_ja.html)

研究指導の内容: 応用生理学研究室では、スポーツや運動と食事による身体適応のメカニズムを解明するとともに、体力向上や健康増進のための新たな手法を考案する研究を行っています。大学院での研究指導では、健康寿命の延伸や体力向上のための身体活動と食事の相互作用を明らかにするための生理学や疫学の研究手法やその論文化、研究成果の社会実装の手続き等を習得するため知識の供与や実践の機会を提供するなどの支援を行います。特に博士課程の学生には、研究資金の獲得や倫理審査申請といった研究準備、安全かつ効率的な実験・調査の実施、研究結果の公正な公表・公開などの研究遂行のマネジメントに関する知識と経験を取得し、学術論文の公表、知的財産の創出を目指して頂きます。具体的には、①トレーニングの種類と呼吸・循環・代謝の適応、②生活習慣病やサルコペニア・フレイルを予防する身体活動と食生活、③体力や身体活動の評価法の開発と標準化、④マイクロバイーム(腸内細菌叢などの共生細菌叢)と生活習慣といったテーマを基本としつつ、それぞれの受講生の希望する研究テーマでの研究実践を支援します。

Keywords: 生理学、疫学、トレーニング、適応、体力、マイクロバイーム、生活習慣、食生活

---

---

## 4. 身体運動科学 研究領域

---

生体ダイナミクス 研究指導(修士課程、博士後期課程)

川上 泰雄 教授

専門分野/専攻分野:運動生理学/バイオメカニクス

学位:博士(教育学)東京大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/ykawa/indexj.htm>; ヒューマンパフォーマンス研究所:

<https://www.waseda.jp/prj-hpl/>

研究指導の内容:人間を対象として、身体運動の発生源である骨格筋の形態的・機能的特性の生体・解剖体の計測を行う。人体筋の非侵襲的な可視化および収縮の定量化に関して、超音波法やMRI法などの画像解析、筋力計や筋電図、近赤外分光法、3次元人体形状計測法などを用いた生体信号の解析などを駆使して研究を進める。収縮中の骨格筋のダイナミックな動きを可視化・定量化し、筋力発揮特性や身体運動のパフォーマンスの規定因子を探る。さらに、トレーニング、身体不活動、成長、加齢、疲労などによって身体や筋に生じる変化について、縦断的・横断的に検討を加える。現在、以下の5つのテーマを柱とした研究が進行中である。1)骨格筋メカニクスの解析を通じた関節パフォーマンスや障害発生のメカニズム、2)筋・腱・筋膜特性の個人差と適応性、3)子どもの身体能力の発達、4)中高齢者の健康増進方策の開発、5)スポーツパフォーマンスの規定因子の解明とパフォーマンス向上のためのギア(ウエア・シューズ等)の開発。海外からのスタッフや留学生が多く、海外機関との共同研究も進めているため、研究室のミーティングは英語が中心となる。

Keywords:筋線維、腱組織、筋膜(Fascia)、超音波、MRI、組織画像解析、生体信号解析、生体計測、スポーツパフォーマンス、成長、加齢、個人差

---

スポーツ心理学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

正木 宏明 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ心理学、運動心理学、認知神経科学、精神生理学

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.waseda.jp/sem-masaki/>

研究指導の内容:本研究指導では、人間と環境との相互作用を重視する心理学的アプローチに主眼を置きながら、認知神経科学の手法を適用することで、動作スキル獲得の背景メカニズムやアスリートの「あがり」防止等について研究する。スポーツでは、視覚情報を瞬時に認知し、適切な行動を選択し、それを正確に実行する必要性に迫られる。実際の動作が目標動作から逸脱すれば、脳はそれをエラーとして検出し、評価・修正することで、より洗練された動作をつくりだしていく。こうした脳内情報処理について、高時間分解能の脳波と高空間分解能のfMRIを併用して調べる。同様の手法を用いて、運動が認知機能に及ぼす影響についても検証する。エリートアスリートであっても、プレッシャー下でパフォーマンスを低下させてしまうことがある(あがり)。あがり対策として、注視行動に着目したトレーニング(Quiet Eye training)や脳活動の偏側性に着目した対処法の有効性について実験的に検証する。

Keywords:脳波、fMRI、運動学習、パフォーマンスモニタリング、あがり、Quiet Eye

---

---

統合運動神経生理学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

宝田 雄大 教授

専門分野/専攻分野:生物・生命科学/神経科学、生理学、スポーツ科学

学位:博士(学術)東京大学

Home page: <http://researchers.waseda.jp/profile/ja.2a4c95e8182a613cb97bfd1b7340fab.html>

研究指導の内容:①-我々は、日常生活を特に意識することなく過ごしている。実際ヒトは、無意識的に行動目標を追求でき、それを報酬と関連付けることで、高い意欲をもって無自覚的に力強いアクションを引き起こす。運動行動の自動的・無自覚的制御と脳活動等に関する神経科学的な研究を指導する。②-低強度な血流制限下運動(通常“加圧トレーニング”)は一過的に内分泌・運動システムを活性化させ、その中長期的な実施は筋肥大をともなった筋力増大を引き起こす。血流制限下運動の一過的・慢性的身体適応に関する生理学的・神経科学的な研究を指導する。③-①と②の研究成果に基づいたトレーニング法などの開発に関する研究を指導する。

Keywords: 無意識の意志、動機づけ、瞳孔測定運動システム、努力感、最大随意筋力、筋肥大、レジスタンストレーニングなど

---

バイオメカニクス 研究指導(修士課程、博士後期課程)

矢内 利政 教授

専門分野/専攻分野:バイオメカニクス/スポーツ傷害・パフォーマンス分析

学位:PhD (University of Iowa)

ホームページ <http://www.waseda.jp/sem-yanai/index.html>

研究指導の内容:バイオメカニクス研究室ではスポーツパフォーマンスにおける「力」と「運動」との関係に焦点を当て、①スポーツにおける身体運動の『からくり』を探る基礎的研究、②スポーツ傷害のメカニズムやリハビリテーションの効果を分析する臨床的研究を進めている。様々な競技の中で特に投・打・泳の分析に力を入れており、スポーツ現場における技術指導を科学の視点でサポートする活動も並行して行っている。ハイレベルな選手が長年培って獲得したフォームは個性的な場合もあるが、力学的な視点で捉えるとこれらの選手には共通した特徴が見られるため、その動作を考える上での理想像はこれら共通項に隠されていると考えられる。そのような理想像を科学の視点で追究することにより、競技力の向上と外傷・障害の予防を両立させるフォームを構成する因子を見つけ出すことができると確信している。

Keywords: 競技スポーツ、関節可動域、キネマティクス、筋骨格系傷害、Newton 力学

---



---

スポーツ栄養学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

田口 素子 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/スポーツ栄養学

学位: 博士(スポーツ科学)早稲田大学

研究指導の内容:アスリートのコンディショニングと競技力向上のために栄養摂取は重要である。本研究指導では、エネルギー代謝と身体組成、ウエイトコントロールと体づくりに関連する内容の調査・測定を行い、競技者のエネルギー代謝と身体組成の変化に影響を及ぼす生理学的諸要因を探り、適切なエネルギーと栄養摂取方法及びアスリートの食事戦略について検討する。アスリートを対象とした横断研究のみでなく、食事介入研究も実施している。アスリートのパフォーマンス向上とコンディショニング、及びスポーツ栄養マネジメントを行うにあたって役立つエビデンスの蓄積を目指しているが、その知見はジュニア層や健康維持・増進を目指す人々にも応用可能と考える。

Keywords:エネルギー代謝、身体組成、栄養・食事管理、栄養学的コンディショニング

---

運動生理学(修士課程、博士後期課程)

林 直亨 教授

専門分野: 運動生理学, 生理学, 応用生理学

学位:博士(医学)大阪大学

研究指導の内容:生理学的な研究を基盤として、循環系応答およびこれらと感覚情報との関連を中心に指導する。すなわち、運動自体やスポーツを支援するような手技(食事やマッサージ等)に伴う循環系の応答や、その調節メカニズムについて、ヒトを対象にした循環系の測定を通して明らかにする実験研究を扱う。修士課程では、自らの疑問を研究に落とし込み、研究を立案・実施することから、論文執筆までを主に指導する。博士後期課程では、修士課程の内容に加えて、学会発表や英語論文の発表を可能になるよう指導する。

Keywords:末梢循環, 眼底血流, 脳血流, 感覚, 視覚, マッサージ

---

---

## 5. コーチング科学 研究領域

---

走運動・コーチング科学 研究指導(修士課程)

磯 繁雄 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/コーチング、走りの科学、障がい者スポーツ指導論

研究指導内容:近年のスポーツは、科学的視点が導入され基本的動作や体力・心理等の解明によりコーチングの一般化は明らかにされつつある。しかし、トップアスリートに対しては、競技種目別や指導者の手法の違いにより、様々なコーチングが存在している。本研究指導では、トップアスリートを対象とした様々なコーチングを動作解析法や社会調査法等により、競技種目間に存在する、動作の共通性や特異性を解明する。特に「走り」に関しての解明は、中心的課題である。また、障がい者のトップアスリートに注目し、健常者との共有した競技力向上のコーチングについても注目している。

keywords:コーチング、陸上競技、動作解析、走りのモデリング、障がい者スポーツ

---

トップスポーツコーチング科学 研究指導(修士課程)

奥野 景介 教授

専門分野/専攻分野:記録競技・水泳競技/コーチ学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/okunok/>

研究指導の内容:現代社会に機能する「コーチング」をスポーツ・教育の分野より科学的に、また技能的に捉え、競技に対するコーチングの現象について専門的に理解を深める。また、トップアスリートに関連する実践的研究の理解を深めることで高度なスポーツ実践専門家養成を目指す。主な研究課題は、1)一流選手をはじめとする競技者のパフォーマンス獲得のプロセスや根拠の解明、2)パフォーマンスの評価、3)最新のスポーツトレーニング方法およびコーチング方法の開発:オリンピック等チャンピオンスポーツを対象として。

Keywords:パフォーマンス向上・評価、トップアスリート、コーチング、水泳

---

スポーツコーチング学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

土屋 純 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/スポーツバイオメカニクス、スポーツ運動学

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/tsuchiya/>

研究指導の内容:スポーツパフォーマンスは技術面、戦術面、体力面、心理面などに細分化されて評価され、それぞれについて向上策が検討されることが一般的である。本研究指導ではこのうち特に技術面を取り扱い、スポーツ技術の把握とその指導方法について、スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動学の観点から解明する。主な研究課題は、1)スポーツ運動の質的把握、2)スポーツ運動のバイオメカニクスの分析、3)スポーツ技術のトレーニング方法の構築。

Keywords:スポーツバイオメカニクス、スポーツ運動学、コーチング、スポーツ技術、競技力向上

---



---

コーチング心理学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

堀野 博幸 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/コーチング科学、スポーツ心理学

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/horino/indexj.htm>

研究指導内容:「トップアスリートのトップパフォーマンス構築」と「育成年代の選手育成」に関するコーチングプロセスには、共通する要素が多い。本研究指導では、両者のコーチング現場で起こる種々の事象を、スポーツ科学の観点から解明し、コーチングの体系化と知見の実践的応用を目指す。加えて、スポーツフィールドとアカデミックフィールドの融合を図るため、両フィールドでの活動を積極的に行う。主な研究課題は、1) スポーツ心理学とコーチング、2) 戦略・戦術分析、3) チームビルディングとチームマネジメント。

Keywords: コーチング、戦略・戦術分析、スポーツ心理学、メンタルサポート、チームマネジメント

---

ボールゲーム戦術戦略論 研究指導(修士課程)

倉石 平 教授

専門分野/専攻分野:コーチング、戦術戦略(ボールゲーム)、バスケットボール競技

Home page: [http://www.waseda.jp/sem-ck\\_analysis](http://www.waseda.jp/sem-ck_analysis)

研究指導内容:ボールゲームにおけるコーチングは、近年まで経験的なコーチングが主となっていた。しかし近年は、スポーツ科学を重視した形に変容してきている。欧米では、ボールゲームのほとんどがプロフェッショナルなこともあり、早くからスポーツ科学が導入されていた。このボールゲームのコーチングに不可欠な要素が、情報(収集を含む)、その分析、反映(ゲームプランの立案)である。本研究指導として、情報・分析・反映を鑑み、バスケットボールなど入り組むボールゲームを主に、オリンピック、ワールドカップ、そして予選などを中心に調査研究を行う。また、国内のトップリーグに関しても同様に調査研究を行う。

一方で国際競争力を得るためには、強化としての一貫指導が不可欠であり、その部分に関して幼少期からトップまでの育成、強化についても諸外国、特に強豪国などの調査研究も行う。如何に日本に反映できるかなどの検討も行う。

Keywords: コーチング、戦術戦略、情報収集・分析・反映、バスケットボール競技、一貫指導

---

トレーニング科学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

岡田 純一 教授

専門分野/専攻分野:トレーニング科学/ストレングス&コンディショニング

学位:博士(スポーツ科学)早稲田大学

Home page: <https://www.waseda.jp/sem-training/>

研究指導の内容:競技者においてはパフォーマンス向上に関わる身体諸機能を高めるため、あるいは高齢者においても日常生活活動の改善のために筋力/筋機能を高めるなどトレーニングは広く一般的になっている。トレーニングの実際のプロセスは立案、実行、評価、修正を適切に行うことが大切である。すなわちプログラムの立案と管理/運用、その効果の測定および評価に関する、実践的研究を推進する。とくに、競技特性を考慮した筋力、パワー測定を中心にした身体パフォーマンスの評価やフィールドテストを活用していく。

Keywords: レジスタンストレーニング、ウエイトリフティング、ジュニア・アスリート・高齢者の体力、コンディショニング、筋力、パワー

---

---

チームスポーツコーチング論 研究指導(修士課程、博士後期課程) **松井 泰二 准教授**

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/コーチング学、ゲームアナリシス、バレーボール

学位:博士(コーチング学)筑波大学

研究指導の内容:チームスポーツにおける戦術は、単なる個人技術の集合体ではなく、複数人で構成されるシステムにより成立される。したがって、そのシステムを多面的な観点から捉え、科学的根拠に基づき構築しなければならない。また、チームスポーツにおけるパフォーマンスの結果は、多様な要素が絡み合っていることから、その構造は明らかにされていないことが多い。そこで、技術・戦術・戦略およびコーチングプログラムの構築を研究課題とする。主な研究課題は、1) チームスポーツにおけるゲームアナリシス研究、2) チームスポーツにおけるパフォーマンス研究、3) チームスポーツにおける(競技レベルに応じた)技術・戦術・戦略の研究、4) チームスポーツにおける効果的なコーチングプログラムの研究

Keywords:コーチング、チームスポーツ、技術・戦術・戦略、バレーボール

---

武道のコーチング学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

**射手矢 岬 教授**

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/コーチング学、体力トレーニング学

学位:博士(体育科学)筑波大学

研究指導の内容:オリンピック競技である柔道は競技力向上のために体力、技術、戦術トレーニングが主に行われている。しかしながら、武道では伝統的な稽古の仕方も受け継がれている。特に武道では相手の力や技を利用することができる。また、武道特有の身体操作があり、これは他のスポーツや日常動作ではみられない。本研究指導では、武道特有の特殊な体力を測定したり、技の動作分析を行ったりして、トップアスリートや熟練者の強さや効率の良さを解明する。主な研究課題は、1) 技術に関係する特殊筋力測定の開発、2) 熟練者の技の解明、3) 技術の指導法の構築などである。

Keywords:格闘技、武道、柔道、コーチング

---

冬季スポーツコーチング学 研究指導(修士課程)

**藤田善也 准教授**

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/コーチング学、スポーツバイオメカニクス

学位:博士(スポーツ科学)早稲田大学

研究指導の内容:近年では世界トップレベル選手を対象とした研究報告が増えており、競技現場においても科学的知見をもとにしたコーチングが行われてきている。また様々な科学サポートが選手の競技力向上のツールとして発展してきている。本研究指導では、冬季スポーツを対象に、競技を様々な側面から科学的に分析することで、競技力向上のための示唆を得ることを研究課題とする。主な研究課題は、冬季スポーツを対象とした1) 各種技術のバイオメカニクス分析、2) 選手の体力評価、3) 競技力向上に関するツールの研究開発である。

Keywords:冬季スポーツ、スポーツバイオメカニクス、体力評価、プログラミング、研究開発

---

---

## 修士課程1年制コース

---

### 1. トップスポーツマネジメントコース

---

トップスポーツビジネス論 研究指導(修士課程1年制コース)

平田 竹男 教授

専門分野/専攻分野:経営学/スポーツクラブ、スポーツマーケティング、スポーツビジネス論

学位:工学博士(東京大学)

Home page:<http://www.waseda.jp/sem-hirata/>

研究指導の内容:本研究指導では、将来のスポーツ界のトップリーダーに対して理論的支柱を与えることを目的とし、近年急速に進展を遂げるトップスポーツビジネスに関して、メディアの発展およびマネジメント手法の進化を踏まえ、スポーツクラブや競技団体、そしてスポーツメディア、スポーツに関する企業等の持つ課題に対する解決方法を究明する。

日本サッカー協会専務理事や内閣官房 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会推進本部事務局長としての経験等に基づき指導を行う。

具体的な研究課題:

- 1) 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシーに関する研究
- 2) 地域スポーツクラブのビジネスモデルに関する研究
- 3) プロスポーツ等のリーグ設計及びクラブ・球団経営
- 4) スポーツメディア研究
- 5) スポーツリーグ分析と競技団体研究
- 6) スポーツを活用した企業、大学、教育機関の経営研究
- 7) スポーツ外交、資源外交、ソフトパワー論 など

Keywords:スポーツクラブ、スポーツメディア、スポーツマーケティング、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、リーグ、マネジメント、エンターテインメント、地域、アジア

---

---

## 2. スポーツクラブマネジメントコース

---

スポーツクラブマネジメント 研究指導(修士課程1年制コース)

間野 義之 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ政策

学位:博士(スポーツ科学)早稲田大学

E-mail: [y-mano@waseda.jp](mailto:y-mano@waseda.jp) Home page: <http://www.manosemi.net/>

研究指導の内容:学校運動部活動と企業スポーツを両輪とした日本型スポーツシステムの限界が見えたなか、地域密着型の新たなスポーツシステムが求められている。企業運動部のクラブ化はもとより、Jクラブやプロ野球でも地域に根付いたクラブ化を模索しており、その一方で学校・地域・家庭・企業・行政の連携による「総合型地域スポーツクラブ」の普及・育成が国策として進められている。プロ・アマを問わず、これらのクラブが自主独立し健全に発展するためには、多くの複雑な問題が存在する。それら諸問題の現実的な解決策(ソリューション)について総合的に研究指導する。具体的には、受講生自身が関与する(であろう)スポーツクラブの修士論文について研究指導する。

Keywords:スポーツクラブ、公共スポーツ施設、スポーツ政策、プロモーション、セカンドキャリア、クラブマネジャー、震災復興

---

## 3. 健康スポーツマネジメントコース

---

健康スポーツマネジメント 研究指導(修士課程1年制コース)

中村 好男 教授

専門分野/専攻分野:体力科学・スポーツ産業学/運動生理学・健康スポーツ論

学位:博士(教育学)東京大学

E-mail: [nakamura@waseda.jp](mailto:nakamura@waseda.jp)

研究指導の内容:本研究指導では、健康増進の実務経験を有する者に対して、運動やスポーツを中心とした健康増進活動の実践技能とそのマネジメント能力を開発することによって、社会的に要請される人材を育成することを目的とする。まず、身体行動科学ならびに社会マーケティングについての基礎理論を学習した上で、各々の関与する実務分野の状況に応じて、健康科学、栄養学、身体行動科学などの関連諸領域の基礎理論を学習する。それらの基礎知識を前提として、地域行政あるいは健康関連組織における健康増進のマネジメントを行う上での実務的・専門的能力を開発する。具体的には、地域自治体・フィットネス施設・老人福祉施設・職場等、各自が関わる現場(フィールド)において、スポーツ振興、健康増進ならびに高齢者生きがい支援システムを開発しその評価モデルを構築する。それらを実現・実施した上で、その成果を取りまとめて修士論文を提出するとともにしかるべき学術誌に投稿・刊行することを、本コースの到達目標とする。

Keywords:健康、運動、栄養、高齢者、健康増進、行動科学、マネジメント、マーケティング

---

---

## 4. 介護予防マネジメントコース

---

介護予防マネジメント 研究指導(修士課程1年制コース)

岡 浩一朗 教授

専門分野/専攻分野:健康行動科学・行動疫学・老年学/介護予防・ヘルスプロモーション

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/koka/index.html>

研究指導の内容:超高齢社会を迎えた我が国における2025年問題の解決に向け、介護保険など社会保障制度の整備、改革が進められている。このような背景のもと、中高齢者の健康寿命の延伸を目指した生活習慣病予防、介護予防・フレイル対策に関する取り組みが注目され、その方法論の確立が急務となっている。特に、介護予防・フレイル対策が必要な対象者をどのようにして把握するのか、どのようなサービス(たとえば、運動器の向上や運動器疾患対策、認知症予防のためのプログラムなど)を提供していけばよいのか、介護予防・フレイル対策を効果的・効率的に普及させるためにはどのような戦略を立案していけば良いのかなどは非常に重要な研究テーマである。そのため、保健・医療・福祉あるいは運動・スポーツ指導の現場で中高齢者の健康づくりに携わる者が、修士論文をまとめる過程において、介護予防・フレイル対策に関わる諸理論および実践技能を学び、行政や関連組織において介護予防を推進していく上での実務的・専門的能力が高まるよう研究指導する。

Keywords: 老化予防、虚弱高齢者、運動器疾患対策、行動変容、ヘルスコミュニケーション、健康経営

---

## 5. エリートコーチングコース

---

エリートコーチング研究指導(修士課程1年制コース)

(主担当)土屋 純 教授

(副担当)磯 繁雄 教授

奥野 景介 教授

堀野 博幸 教授

倉石 平 教授

岡田 純一 教授

松井 泰二 准教授

射手矢 岬 教授

藤田 善也 准教授

専門分野/専攻分野:コーチング

研究指導の内容:オリンピックや世界選手権への出場といった高い競技力を獲得する過程で経験知や暗黙知、科学的視点を豊富に蓄積してきた優れたスポーツ選手および指導者に対して、そうした知識や視点を個人内に留めおくのではなく、研究論文といういわゆる「形式知」にまとめ、その情報を発信できる能力を養成し、さらに優れたスポーツ指導者となるための研究指導を行う。高いレベルのコーチングに関する研究論文を執筆でき、トップレベルのコーチングを高度な理論を背景に行える能力を習得することを到達目標とする。

Keywords: コーチング、暗黙知、形式知、日本代表

---

---

## 6. スポーツジャーナリズムコース

---

スポーツジャーナリズム 研究指導(修士課程1年制コース) (主担当)藤原 庸介 客員准教授  
中村 好男 教授  
平田 竹男 教授

研究指導の内容:近年、ことにIT革新の影響もあいまって、ジャーナリズムを取り巻く環境は大きく変化している。また、スポーツビジネスの進化やメガイベントの隆盛を踏まえたインテグリティに関する諸問題は、それらを伝えるメディアの役割も大きく変化させている。このような変化に対応するために、現場のジャーナリストにはスポーツ科学やスポーツビジネスの最新動向も含めた素養をアップデートすることが求められている。本研究指導では、現場のジャーナリストや、スポーツジャーナリストを志す有為な人々を対象として、スポーツ科学やスポーツビジネスの最新動向ならびにマネジメント技法の学習を通じてスポーツに関する知識や洞察法を開発することによって、スポーツの健全な発展と社会的要請に応えることのできる人材を育成することを目的とし、ジャーナリズムに関する実践力と探求能力の育成を図りつつ、スポーツあるいはスポーツビジネスに関わる諸問題を高度な教育・研究を通して解明し、スポーツ界の健全な発展に寄与し得る実務的・専門的能力を養成する。

Keywords:スポーツ科学、スポーツビジネス、マネジメント、マスコミ、コミュニケーション、国際政治

---